著述家・山口ミルコさん

編集者時代の経験　後輩に伝える

長年、出版社の編集者として活躍してきた著述家の山口ミルコさん（昭63文）が9月28日、生田キャンパスを訪れ、雑誌づくりに取り組む文学部の後輩のインタビューを受けた。

きっかけは今夏、山口さんが講師を務めた編集者志望の就活生を対象とした集中セミナー。これを川上隆志ゼミの三崎友也さん（3年次）が受講したことから実現した。

山口さんは角川書店雑誌編集部から1994年に幻冬舎の編集者に。文芸、芸能など幅広い分野で次々とヒットを飛ばしてきた。2009年幻冬舎退職後は『毛のない生活』『似合わない服』など4冊を上梓し、本をつくる側から書く側になった。

インタビューする三崎さん（左）と山口さん

川上ゼミでは、企画、取材、編集、デザインまで学生たちの手で行う雑誌『SHOW』（年1回発行）の13号を制作中で、山口さんは三崎さん、村田侑晟さん（4年次）、川島幹太さん（3年次）から約1時間にわたって取材を受け、編集者としてのこれまでを振り返った。「大活躍した出版社をなぜ辞めたのか」といった三崎さんの率直な質問に丁寧に答えた上で、「信念を持って自分の道を進んで」と後輩たちを激励した。インタビューは12月発行予定の『SHOW』に掲載する。

ゼミ生たちは「縁やチャンスを自分のモノにして夢をかなえてきたところが素晴らしい」（川島さん）、「困難にぶつかっても常に前を見て仕事に取り組んでいる」（村田さん）と話し、すっかり山口さんの魅力に引き込まれたようだ。

約30年ぶりに母校を訪れた山口さん。「在学中は、9号館はグラウンドだった」と生田キャンパスの変容ぶりに驚いていた。「こんな素晴らしい環境で学んでいる学生たちは幸せですね」と感慨深げに語った。

学生時代はスウィングジャズ研究会でサックスとクラリネットを奏でていた。同好会の部室も訪れ、鳳祭を前に練習に励む後輩学生たちの演奏に聴き入り、往時を懐かしんだ。

専大校友を訪ねて

京都「御料理・味舌」主人
味舌　正洋さん
（昭46経営）

―多くの出会いが人生を彩る―

国内外の旅行客でにぎわう京都の祇園。その中心部・四条通にある「御料理・味舌」を大将として切り盛りし、来年40周年を迎える。

店内に一歩足を踏み入れると、静かなたたずまいが広がる。季節の素材を吟味し、丁寧に取られただしを使った京料理の数々が熟達した腕から生み出され、食通をうならせる。ミシュランガイドの「一ツ星」を獲得している。

「半歩先の季節を取り入れる心意気を大切にしています」と語る。夏の終わりのお膳には、加茂ナスの煮物に、走りのマツタケが添えられる。スタッフは、大将はじめ料理人が3人に、女将役の厚子夫人と長女・洋恵さん。全員が笑顔で迎えてくれる、家庭的なもてなしも魅力だ。

京都・山科の生まれ。祇園で約90年続く蕎麦店「権兵衛」の創業者の四男として育った。「格式を重んじる京都から一度逃げ出したくて」関東の専大に進学した。卒業後、親から「末っ子だから何をやってもいい」と言われ、滋賀の料亭・招福楼の門をたたいた。そこの大将・中村秀太郎さんとの出会いがその後の板前人生を決定づける。

中村さんから懐石料理のいろはを吸収するなかで、「庭づくりは5年先を考えなければならないが、料理は今ある一瞬を大事にするもの。自由に取り組め」と言われた。伝統に固執せず、はやりに迎合しない。新しいものを上手に取り入れて客にどれだけの思いを尽くせるか――「それが料理の極意であり、どの文化にも共通することではないかと思っています」

学生時代、東京都狛江市でまかないつきの下宿に住んだ。卒業し47年たった今も連絡を取り合う親友、宮城県松島町議の色川晴夫さん（昭46法）とそこで出会った。色川さんの弟は味舌で修業し、同県塩竈市で人気の日本料理店を開いている。人生を彩る「一期一会」。出会いの妙はここでも生きている。

専修人の新しい本

経営者が楽になる！職場のメンタルヘルス対策
荒木田和子著
＜校友＞

〝心のケアの専門家〟臨床心理士として活躍する荒木田和子さん（平元文）の初の著作。企業における臨床心理士の役割やメンタル面から従業員をサポートするEAP（従業員支援プログラム）の展開方法などを解説し、臨床心理士を会社経営に活用する方法を紹介している。

荒木田さんは、福祉・医療・産業領域で25年以上の実務経験を持ち、現在はEAPコンサルタント業務を行うEAPパートナーカウンセリング・オフィスで代表を務める。

本書では特に、中小企業で活用できる臨床心理士の仕事やサービスについて実例を交えて紹介。「中小企業の経営者の方々は、社員の心の問題をどこに相談していいか分からない。そういう人にEAPを知ってもらい、利用してほしい」と話している。2006年に刊行され、学生や投資初心者向けの本として第4版まで改訂を重ねてきた『株・証券用語がよ～くわかる本』をリニューアル。古くなった用語と最近よく使われる用語を入れ替え、情報も最新のものにアップデートした。

基本である「証券」から始まり、「ロボアド」などの最近の投資環境に関する用語まで、最新・最重要語句350語を、かみ砕いた表現と豊富な図解イラストで分かりやすく解説。各用語にはユニークな一言コメントが添えられており、クスッと笑いながら、楽しく学ぶことができる。

株・証券用語がよくわかる本
石原敬子著

2006年に刊行され、学生や投資初心者向けの本として第4版まで改訂を重ねてきた『株・証券用語がよ～くわかる本』をリニューアル。古くなった用語と最近よく使われる用語を入れ替え、情報も最新のものにアップデートした。

基本である「証券」から始まり、「ロボアド」などの最近の投資環境に関する用語まで、最新・最重要語句350語を、かみ砕いた表現と豊富な図解イラストで分かりやすく解説。各用語にはユニークな一言コメントが添えられており、クスッと笑いながら、楽しく学ぶことができる。

著者の石原敬子さん（平2文）は証券会社で13年間、営業を経験、現在はファイナンシャル・プランナーとして活躍。『金融用語がよ～くわかる本』なども執筆している。「初心者にも分かりやすく、お客様に寄り添った解説書を心掛けた」（秀和システム・本体1500円＋税）

話している。（ギャラクシーブックス・本体1350円・税込み）

11月3日（土・祝）ホームカミングデー主なイベント

第59回毎日芸術賞受賞　仲川恭司先生講演会
仲川名誉教授が「書とは何か」「書の魅力とは」について話す。【時間】10時30分～11時30分【場所】9号館5階アトリウムステージ

文学部ジャーナリズム学科開設記念　長野智子さんと語るメディアの可能性　キャスター、放送ジャーナリストの長野智子さんをゲストスピーカーに迎え、放送ジャーナリズムの現状などを武田徹文学部教授と語り合う。【時間】13時30分～14時30分【場所】9号館5階アトリウムステージ

校友会情報

〈岩手県支部連合会総会〉
▽10月27日（土）16時～▽JR二戸駅から徒歩15分「二戸パークホテル」問菊池秀雄氏☎0197・64・2797

〈高知県支部総会〉
▽10月27日（土）18時30分～▽JR高知駅から徒歩10分「得月楼」問戸梶邦彦氏☎090・1007・5071

〈大阪府支部総会〉
▽10月28日（日）11時～▽JR福島駅（大阪市）すぐ「ホテル阪神大阪」問菅井敏男氏☎090・3717・8788

〈三三会総会〉
▽11月2日（金）12時30分～▽神田キャンパス「報恩の間」※落語家・立川談修さん（平7法）の落語あり問田部俊彦氏☎047・422・8873

〈静岡県支部連合会定期総会〉
▽11月10日（土）15時～▽JR静岡駅から徒歩5分「クーポール会館」※落語家・桂小文治さん（昭55商）の講演あり問大村和芳氏☎055・948・6599

〈中越支部黒門会総会〉
▽11月10日（土）15時～▽JR長岡駅から徒歩10分「料亭かも川別館」問池津正栄氏☎0258・27・2273

〈江東支部総会〉
▽11月10日（土）18時～▽東京メトロ東陽町駅から徒歩7分「ホテルイースト21東京」問坂口文哉氏☎090・1437・9780

〈山梨県支部定期総会〉
▽11月10日（土）18時～▽JR甲府駅から車10分「甲府富士屋ホテル」問宮坂孝一氏☎090・3006・2969

〈流通研究OB会総会〉
▽11月14日（水）16時～▽神田キャンパス8A会議室※総会後に講演会問中島由紀子氏☎03・3516・3520（ビーコミュニケーションズグループ内）

アドニス85号刊行

校友会誌「アドニス」85号の主な内容▽定時総会と全国支部長会▽「われら専修人Special 1」東京消防庁オリンピック・パラリンピック準備室長の伊藤幸永さん（平7法）、小売業支援事業のブルーチップ㈱代表取締役社長宮本洋一さん（昭51商）、フードサービス事業の㈱バル・ホールディングス代表取締役藤野豊さん（昭51法）

就職前の最後の「学び」

緑地帯

「残り少ない大学生活をどう過ごせば良いか」

長かった就職活動も一段落しホッとしている学生も多いであろう。内定を得た喜びとその開放感から最後の学生生活は思いっきり遊びたいかもしれない。しかしながら就職まで残り半年、入社後に向け新たな準備を進めることを忘れてはいけない。

では、就職前の残り少ない大学生活をどう過ごせばよいのだろう。

まず長い時間をかけないとできないことにチャレンジすることを提案したい。例えば、この先まず行かないであろう、と思う場所への一人旅も良いだろう。自由時間が制限されない今のうちに冒険のような旅で感性を磨けば、社会人になって苦境に立たされても旅の経験がきっと役立つだろう。または長編の名著をじっくり読むことで、社会に入って判断を求められた時に強固な教養が戦力となるかもしれない。

さらに自分の棚卸しをしてみるのも良いだろう。人は長期的なことより目の前のことに時間を奪われる傾向があるから、自分にとってやり遂げたいことを早く見つけて計画すれば、社会での仕事もより円滑に進めることが可能となろう。それでも就職までにすべきことで迷うのであれば一点集中主義はどうだろう。例えば食の話が嫌な人はいないので食に詳しくなれば社交に恵まれ、さらに一点集中を極めれば、詳しいだけで盛り上がり、そういう新人は重宝されるかもしれない。

結局、「学び」は知識と経験からなる。社会での経験を活かすためにも最後の学生生活の過ごし方が極めて重要であり、卒業まで意義ある日々を過ごすことが肝要といえよう。

（学生部委員・笠原伸一郎）